

「親学」通じ子育て支援 熊谷のセミナーに800人

埼玉親学推進委員会(高橋史朗理事長)主催の第1回埼玉親学推進セミナーが22日、熊谷市内で開かれ、約800人が参加した。

子どもたちが楽しんで参加できる授業研究を進めている教員グループによる模擬授業をはじめ、「親学」運動を全国的に推



家庭、学校、地域の連携強化策などを話し合った上田知事のパネリスト＝熊谷市のさへらめこと

進する高橋史朗理事長の記念講演、本年度から施行された熊本県の「家庭教育支援条例」の制定までの取り組みなどが報告された。

上田清司知事も参加したパネルディスカッションで、上田知事は県が取り組む「子育て支援センター」の活動をより細やかに進め、子育てで共助の環境を支援する取り組みに力を入れていることを報告した。幼稚園を運営している県教育委員の吉田敬岳氏は、入園前の子どもと母親に対する支援に長年取り組んでいる事例を報告。母親の仲間作りが進んでいることを示

た。高橋理事長は「親育ちの支援なしに子どもは幸せにならない」と現在の教育劣化の大きな要因に「成長できない、しない親」に課題があると指摘。家庭教育の充実に強く関係する女性の就労と子育ての両立について、「行政施策が専業主婦や子育て後に職場復帰したいという約8割の女性に目が向かず、残り2割のキャリア志向の女性に向いている」と強調した。

また、セミナーの中では「親守詩(おやもりうた)埼玉大会」の表彰式が行われ、知事賞に輝いた秩父市立高篠中学の小久保拓海君の作品「すれ違ふ 気持ちつないで 親子詩 思い届け」と言葉を探す」に賞状が贈られた。